

防衛力の抜本的強化 (防衛省提出資料)

安全保障政策における自衛隊の位置づけ

- 我が国の**安全保障政策**は、外交政策をはじめ様々な取組みから構成されているが、**防衛力**は、我が国に直接脅威が及ぶことを防止し、脅威が及ぶ場合にはこれを排除するという、**国家安全保障の最終的な担保**となるもの
- 武力攻撃事態等から大規模災害に至るあらゆる事態において、「**最後の砦**」として中核を担うのは**自衛隊**



【参考：国家安全保障戦略（平成25年12月17日）抜粋】

（2）我が国を守り抜く総合的な防衛体制の構築

我が国に直接脅威が及ぶことを防止し、脅威が及ぶ場合にはこれを排除するという、**国家安全保障の最終的な担保となるのが防衛力**であり、これを着実に整備する。

我が国を取り巻く厳しい安全保障環境の中において、我が国の平和と安全を確保するため、戦略環境の変化や国力国情に応じ、実効性の高い統合的な防衛力を効率的に整備し、統合運用を基本とする柔軟かつ即応性の高い運用に努めるとともに、政府機関のみならず地方公共団体や民間部門との間の連携を深めるなど、武力攻撃事態等から大規模自然災害に至るあらゆる事態にシームレスに対応するための総合的な体制を平素から構築していく。

その**中核を担う自衛隊**の体制整備に当たっては、本戦略を踏まえ、防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画を含む計画体系の整備を図るとともに、統合的かつ総合的な視点に立って重要となる機能を優先しつつ、**各種事態の抑止・対処のための体制を強化する**。

ロシアによるウクライナ侵略の教訓

- 十分な防衛力を持たなかったウクライナは、**高い軍事力を持つロシアを抑止できず、甚大な被害が発生**
- 力による一方的な現状変更を抑止するためには、**相手の「能力」に着目した防衛力（備え）が必要**

ウクライナ侵略の発生

- ① ウクライナは、ロシアに侵略を思い止まらせるような十分な防衛力を有しなかった
- ② ウクライナは、同盟国を有さず、核の傘にも守られていなかった
- ③ 脅威は「意志」×「能力」で顕在化するところ、大きな軍事力を持ち、権威主義的傾向を強めるロシアは、ある時、侵略という意志を持った


結果 ロシアを抑止できなかった結果、既に万単位の死傷者、百万単位の避難民といった甚大な被害が発生


教訓

- 「意志」は変わり得る。「能力」があれば、いつでも「意志」を持ち得る
- 「力による一方的な現状変更は困難」と思わせる抑止力が必要
- そのためには、相手の「能力」に着目した防衛力（備え）が必要

ウクライナ軍 ※装備は旧ソ連製が主体

総兵力：19.7万人(現役)+90万人(予備役)

 27個旅団 + 予備役による地域防衛旅団25個


 哨戒艇(12隻) 掃海艇等(1隻)、揚陸艦(1隻)


 戦闘機・攻撃機(125機)

ロシア軍 ※21年末の近代化・新型装備比率71%と発表

総兵力：90万人(現役)+200万人(予備役)

 9個師団、54個旅団

 主要水上艦(31隻)、哨戒艇(7隻) 掃海艇等(125隻)、揚陸艦(20隻)

 爆撃機(137機) 戦闘機・攻撃機(1033機)

ウクライナ全土に大規模ミサイル攻撃



露軍のミサイル攻撃により破壊されたミコライウ州庁舎 (4月2日ウクライナ緊急事態庁公表画像)

本格侵攻と核による威嚇



露軍の攻撃を受けるマリウポリ (3月14日ウクライナ国防省公表)

◎「露による核兵器使用は我が国の存亡に関わる脅威にさらされれば、あり得る」 (3月22日ペスコフ露大統領報道官)
◎「ロシアの領土一体性が危険にさらされた場合には、ロシア及びロシア国民を守るため、我々は、当然、我々が保有するあらゆる手段を利用する」 (9月21日プーチン露大統領)

ウクライナ側の推定被害状況 (10月10日時点)

死亡者	市民6,221人以上 + 軍約9,000人
負傷者	市民9,371人以上
難民(欧州圏)	7,678,757人
国内避難民	6,243,000人

資料源：国連人権高等弁務官及びウクライナ軍公表資料等


我が国の防衛目標の考え方

- 我が国は、**ロシア、中国、朝鮮半島の最前線に位置**。尖閣諸島、台湾、南シナ海をめぐる問題に直面
- **欧州で起きていることはインド太平洋地域でも生起し得る**ため、「日本への侵攻は困難」と思わせる防衛力を備えた国家となる必要がある

防衛目標

- 力による一方的な現状変更の**抑止**
- そして、**万が一、抑止が破れた場合には、我が国への侵攻に対し、我が国が主たる責任をもって対処し、同盟国からの支援を受けつつ、これを阻止・排除**

上記の目標を達成するために、

- 
- ① **我が国の防衛力の抜本的な強化**に取り組み、
 - ② これを前提とした**同盟国等との連携（拡大抑止を含む）を強化**することが必要
- これらをもって、国民の生命・身体・財産、領土・領海・領空を**守り抜く「意志」と「能力」を示す必要**

「世界は自ら助くる者を助く」

【日米の基本的な役割分担について（平成27年に策定された「日米防衛協力のための指針」）】

日米防衛協力の指針には、以下の考え方が記載されている。

- ・ 日本は、「国家安全保障戦略」及び「防衛計画の大綱」に基づき防衛力を保持する
- ・ **日本は、日本の国民及び領域の防衛を主体的に実施し、日本に対する武力攻撃を極力早期に排除するため直ちに行動する**
- ・ **米国は、日本と緊密に調整し、適切な支援を行う**
- ・ 米国は、その核戦力を含むあらゆる種類の能力を通じ、日本に対して拡大抑止を提供する
- ・ また、アジア太平洋地域において即応態勢にある戦力を前方展開するとともに、それらの戦力を迅速に増強する能力を維持する

対応が必要な相手の行動と我が国の防衛力

- 核の脅威については、**米国の拡大核抑止**をもって対応し、信頼性を向上
- 核以外のあらゆる行動に対応することを念頭に、**7つの柱で防衛力を抜本的に強化**

インド太平洋地域で生起する場合には、より洗練された形で発生する可能性

現実起きたロシア側の行動等
※同時に進行したものも存在

- 核による威嚇
- 多方面から包囲する形で本格侵攻
- 黒海沿岸を海上封鎖しつつ対地攻撃
- 航空侵攻を実施
- ミサイル戦力による大規模攻撃
- 金融・通信分野でサイバー攻撃を実施するとともに、衛星通信にジャミング
- 侵攻の口実を作るための偽情報の流布（偽旗作戦）
- 国境付近に16.9～19万人規模の部隊が集結し、軍事演習を活発化させ、ウクライナを威圧

米国の核抑止

防衛力整備の7つの柱

スタンド・オフ防衛能力

総合ミサイル防空能力

無人アセット防衛能力

領域横断作戦能力

指揮統制・情報関連機能

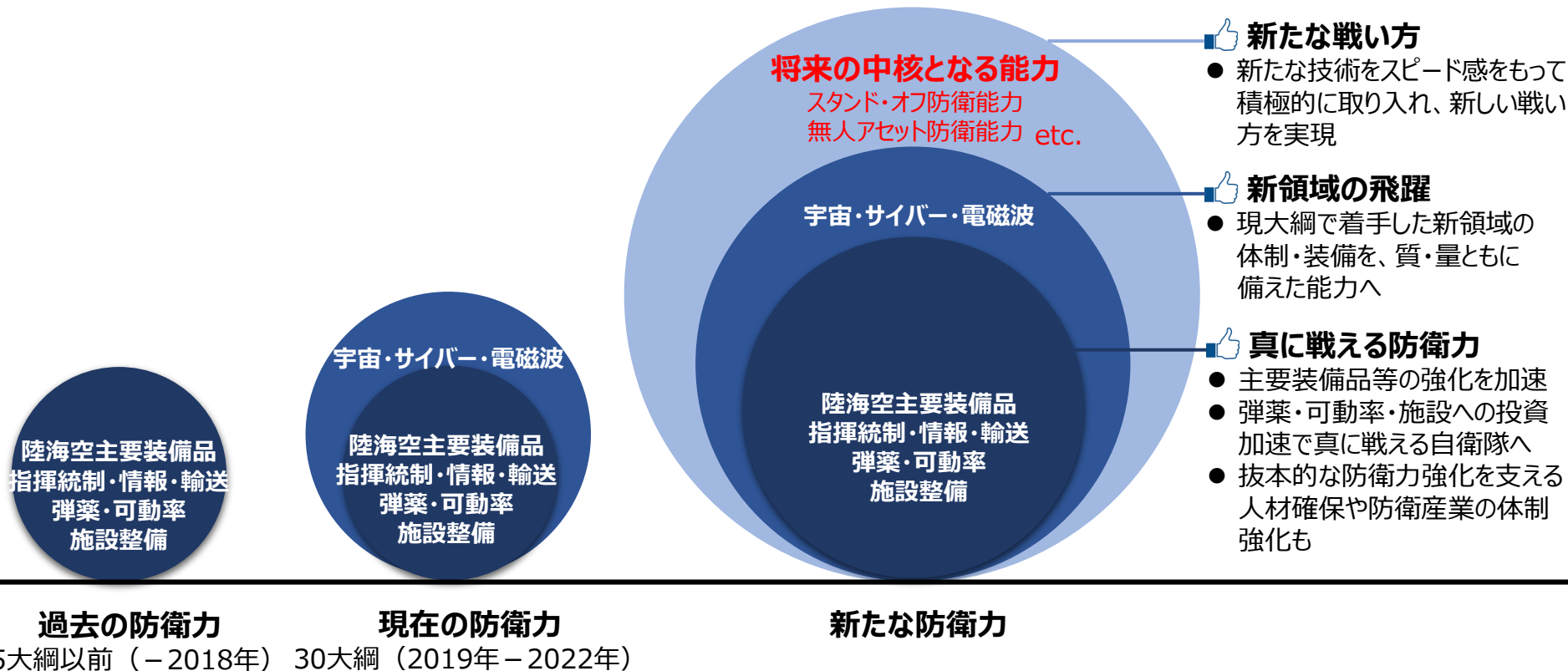
機動展開能力

持続性・強靱性

新たな防衛力の方向性

- ① **スタンド・オフ防衛能力や無人アセット防衛能力など、将来の防衛力の中核となる分野の抜本的強化**
- ② **現有装備品の最大限の活用のため、可動率向上や弾薬確保、主要な防衛施設の強靱化への投資を加速**

防衛力のあり方（イメージ）



防衛力強化の目標と概ねのタイムライン

- **様々な事態**において我が国を守り抜くためには、**防衛力の5年以内の抜本的強化が必要**

2027年までの5年間

我が国への侵攻に対し、我が国が主たる責任をもって対処し、同盟国からの支援を受けつつ、これを阻止・排除し得る防衛力

分野

2027年まで

スタンドオフ防衛能力 ● 実践的な運用能力を獲得

総合ミサイル防空能力 ● 極超音速兵器に対処する能力を強化
● 小型無人機に対処する能力の強化

無人アセット防衛能力 ● 無人機の活用を拡大し、実践的な運用能力を強化

領域横断作戦能力 ● 宇宙領域把握（SDA）能力、サイバー・セキュリティ能力、電磁波能力等の強化
● 領域横断作戦に資する陸海空領域の能力を強化

指揮統制・情報関連機能 ● ネットワークの抗たん性を強化しつつ、AI等を活用した意思決定の迅速化
● 認知領域の対応も含め、戦略・戦術情報の両面で情報の取得・分析の強化

機動展開能力 ● 自衛隊の輸送アセットの強化や民間船舶を活用するなど、輸送・補給能力を強化（部隊展開・国民保護）

持続性・強靱性 ● 弾薬・誘導弾の数量を増加
● 整備中以外の装備品が最大限可動する体制を確保
● 有事に備え、主要な防衛施設を強靱化
● 緊急に必要な火薬庫等の確保

概ね10年後まで

左記防衛構想をより確実にするための更なる努力（より早期・遠方で侵攻を阻止・排除）

概ね10年後まで

● より先進的なスタンド・オフ・ミサイルの装備化
● 所要の数量の保有

● 広域防空能力の強化
● より効率的・効果的な無人機対処能力の強化

● 無人アセットの複数同時制御能力等の強化
● 宇宙作戦能力の更なる強化
● 自衛隊以外へのサイバー・セキュリティ支援をさらに強化
● 無人機と連携する陸海空能力の強化

● AI等を活用し、情報収集・分析能力をさらに強化しつつ、常時継続的な情報収集・共有体制を強化

● 輸送能力を更に強化
● 補給拠点の改善などによる、輸送・補給の迅速化

● 弾薬・誘導弾の適正在庫を維持・確保

● 左記可動率の維持

● 防衛施設の更なる強靱化
● 弾薬所要に見合った火薬庫等の更なる確保